

令和 4 年度第2回加西市子ども子育て会議

日時 : 令和4年11月24日(木)

13:25～15:08

場所 : 加西市役所 4階 入札室

開会

委員紹介

教育長挨拶

協議事項

1 加西市の子育てに関する現状と課題

2 子ども・子育ての総合的な拠点施設に関する事例

○会長 加西市の子育てに関する現状と課題を踏まえながら、各地の事例なども関連させながら、多くの市民に愛される施設として、子育ての手助けになる未来型児童館になりますように、これから皆さんと一緒に専門家のお話もお聞きしながら進めていきたいと思いますので、どうか有意義な時間になりますようお願いします。

○A委員 発達障害の子たちも楽しめるような未来型児童館にしてほしいなっているのは、すごく感じました。

○B委員 意見が出てきてそれを集約しての概念形成というやり方じゃなく、やっぱりこれからの構想の中に今、おっしゃったようにユニバーサルデザインという、意見が出ている、出ていないにかかわらず、これは前提であると思うんですよね。せっかく公費でされて、それを機能的にも推進されていくという責任においては、もう少しその辺の意見聴取をただけっていうことではなくて、こちらからの外してはならない視点っていうものは、かぶせながらまとめておく必要があるんじゃないかなと思いますね。

○C委員 発達についての支援の相談窓口っていうのは、絶対外してはならないことだけれども、発達支援の相談を支えている組織自体が脆弱なんです。脆弱な組織がどんなに頑張ってもどうにもならないところにまで、もう本当に来ています。同時進行で人材も育成していただきたい、人材も集めていただきたいと思います。

○会長 第1回の概要はこの資料に挙がっていますが、2回、3回っていうので、市民にも発信の場はあるんですか。

○事務局 ホームページに公開していきたいと思っています。

○A委員 なかなか市民はホームページを見ない。

○C委員 できるだけメディアというか、発信できるところには全て載せないと、

第一歩からできないから、されないといけないとは思いますが。

○事務局 公式ライン登録者は1万6,000ある中でそれぞれ皆さんね、求める情報って違うので、そのセッティングだけはしてもらいたいです。子育て情報みたいなところを選んでもらえれば、それが届くということになってくると思います。

○D 委員 この未来型児童館に関しては STEAM 教育の体験の場ということで、STEAM 教育っていうものを中心とした施設を造るという感じの方向性に決まったんでしょうか。

○事務局 体験できる場を入れたいというだけで、STEAM というだけにとらわれた施設ではないです。

○教育長 全部コラボレーションしましょうっていうのが STEAM なので、あらゆるところに STEAM の視線というものを持って行けば、これだけっていうようなことにはならない、やっぱりある程度懐のある施設になるんじゃないかなって、というふうにはもちろん思っていますけども、要するに「今までできなかったようなことに科学の目を向けて、子どもたちに理解させようよ」、そして「何か理数的な論理性みたいなもの、頭の中にちょっと培っていこうよ」っていうようなことなので、決して悪いことではないとは思いますが。

だからあとは、療育の相談窓口もあれば、そういう子たちが一緒にコミュニケーションできるような場もあれば、っていうようなことをきちっと構築していかないといけないだろうと思いますね。

○D 委員 発達支援であったり、不登校の問題であったり、いろんな教育の中での問題はあって、そういう人たちが声を上げるのは確かに難しいですし、かといってその子たちをそこだけに隔離するというのも、私は全く違うことだと思うんですね。

○B 委員 どの子も消えかかる小さい声かもしれないけど、意見表明権、幸せになっていく、こういうところはきちんと押さえているよという館にして、そこにいろんなブースなり窓口があり、全体として加西市のどの子も幸せになっていく館、この辺でやっぱり緩やかな哲学的なね、デザインっていうのはやっぱり大事だろうなど。

○教育長 あとね、その未来型児童館に、私もそうなんだけど物すごい期待をかけているわけね。でも、全部は実現できないと思うからね。大きくて伸びやかな教育の哲学みたいなものをどんと据えておかないと、結局そのときだけの現実的な対応になってしまったんではやっぱり意味がないので強く思っています。

○E 委員 未来的の未来とは何かって言われたら、子どもが幸せになることだけじゃなしに、子どもも保護者も家庭も地域も幸せになるものが大きな課題として残らなかったら、小学校に上がったからいいやとか、もう中学校に上がったからそれでいいやなというような形になるのかなっていうふうな思いはあります。

○F 委員 建物としてどれぐらいのものが建てられるのか。これぐらいの建物っていう具体的なイメージを持ちながら、さらに「これを入れてみて、これはちょっと無理

です」とかというような、そういうふうな会議もこれから必要じゃないかなと思います。

○E 委員 教育長も言われましたけれども、国から50億っていうのは。

○教育長 それは、脱炭素。これは全然関係ない。これはまた別の補助金よね。

○事務局 児童館とすれば、すごく小さな金額の補助金しかないです。そんなのでは建たないと思っていますので、現在調べています一つは内閣の交付金があります。図書館を含めてですと、西脇市に Miraie というやつがあるかと思いますが、あれも大型児童館だと思いますけれども約5,000平米です。図書館が1,500ほどありましたので、それ以外の部分が約3,500平米ほどありまして、その事業費があそこで工事費22億円かかっているそうです。

○事務局 土地の取得費はなしだった、土地は別として。土地を含めて30億円ちょっとやったかな。

○事務局 いろいろな機能を入れて大きいものにすると、何十億という大台になってきますので、どこまで出せるかということも考える必要が。

○B 委員 小さな未来型児童館であっても、今ある既存の例えば認定こども園とかいろんな施設とか子ども関係、そことのネットワークです、これは重要な資源だと思うんですよね。そういうネットワークを基盤にして象徴的な未来型児童館があると。だから、ある意味では未来型児童館はネットワークのキーステーションだとして、小っちゃいけれども加西市全域にきめ細かくネットワークを持ってやっているよというそういう形でないと、見落としの部分ってたくさんありますのでね。ただそこで今あるネットワークできる加西市の資源っていうのはね、全部生かしていくっていう。だから、加西市のそういう資源を総がかりで象徴的に未来型児童館を造っていくっていうことも、非常にある意味ではむだではないと思うんですよね。その辺のデザインができるのかどうか。加西市のどこもかしこも未来児童館、未来の緩やかなコンセプトっていうような形かなっていう気がしましたね。

○C 委員 何か具体的なね、企画できるようなものを提示していただいて、例えば「この案やったらこれぐらいの事業費になります、この案やったらこれぐらいの事業費になります」っていうようなもの、何例か挙げてもらわないと、意見の出しようがないとかじゃないかなとは思いますが。

○事務局 今日の場合はそこまでの話にならないタイミングというふうなところを分かっていたきたいです。今日の時点では、ある意味ワークショップでの意見と同じように、皆様方から「私はこういうのが必要だと思う。こんなことも検討願いたい。ここが心配だ。」みたいな声を承った上で、また今後の展開の中で今おっしゃるような話はできるものと思っておりますので、そこは今しばらくお待ちください。

○A 委員 中高生の子どもの意見も聞いてっていう流れがあるんですけど、支援級に行っている親御さんなどの意見を、何かそういう機会って全くないので、1回聞いてみてほしいです。どういうことを親御さんは望んでいるのか。そうしたら、何か

違う目線の答えがいろいろ返ってくると思うんですよ。その子それぞれで発達状況が違ったりとか、多動の子がいれば、全く軽度の知的な子や中度の知的とか、知的な子がいたりするんですけど、親がどういうことを望んでいて、どういうことが必要なのかっていうのを1回聞いてみてほしいなと思います。

○事務局　　この児童館に療育的機能とかそういった方向に最終的になっていくとすれば、そこって本当に大事なところだと思うので、ご意見を参考にしたいと思います。

○会長　　今日は皆さんの立場からの思いを、資料を参考にしながら出してくださったと思うんですけども、これ踏み台にして、教育部長さんも言っておられたように、また次のステップに持って行くっていうそういうたたき台のような感じで良かったんですかね、今日は。

○事務局　　年度内にもう1回この場を持たせてもらう予定にしていますので、その際にはもう少し整理されたものをお示しできるかと思っております。事業規模というか、建物規模、予算、その辺はまだ先のことと思っておりますが、こういったものが未来型児童館には求められ、あと他分野との接合性などをどう整理していくのかというようなところは、詰めていきたいと思っておりますので、今年度もう1回お示しすることになるのかなと思っております。

○会長　　資料を見るだけでは私たちもイメージが湧きませんので、視察に行かせていただいて、そこで現場を見て、「加西市にこういうところが必要であるな」というようなイメージを積み重ねていかないと、ちょっといろんな分野から意見ばかり出ていてもまとまらないと思いますので、そういうところからステップアップしていけばいいかなと思いますけども、皆さんいかがでしょうか。

○D委員　　児童館はいつ造る予定。まだそれ自体も決まってないんですか。令和何年度ぐらいとか。

○事務局　　今現在の全体的な流れを説明しますと、今年度、基本構想作成を予定しています。来年度、基本計画を策定します。令和6年度に基本設計、実施設計をしまして、令和7年度工事、令和8年度を目標という形で今進めているところです。

○事務局　　まだそこで基礎建築工事、その間に今度中身のソフト事業を決めていかないとあかんで、膨大な作業がまだあります。

○A委員　　私たちがいる意味があるのかなっていうのがちょっと今すごくもやもやしてて、こういうことをしてほしいとか、具体的な話ができると思ってたんですけど、それを市は求めていないみたいな感じなんですか。

○B委員　　初期化されて、もう一度こう更地にして、この未来型児童館の第一段階としての意見、緩やかな意見っていうのが、恐らく市の今日の狙いだろうとは思ってますよね。

○A委員　　今日はそんな感じで、分かりました。

○B 委員 この子育て会議は諮問委員会ではないので、やはり市のほうから我々のいろいろな立場からの意見をしっかり聞いてほしいし、述べるという形でね。諮問委員会だったら、ある程度のデザインを国なら国とか、県なら県とか市に答申しないといけないんですよ。答申案を書く委員会じゃないので、そこで我々は自由闊達な意見を言わせていただくという会議だろうというふうに私は思っています。

○会長 本日はいろいろ皆さん立場からいろいろな思い思いの意見を出し合ってくださいまして、今日の設定されていた内容のところまでは何とか見えてきたんじゃないかなと思いますので、これからも次回いろいろ視察とか、この今日のお話を踏まえて、またデータを新たに確認できるように皆さんもしていただいて、また次回に臨んでいただきたらと思いますので、これで拙い進行でしたけれども終わらせていただきます。事務局のほうよろしく願いいたします。

3. 教育部長挨拶

4. 閉会